

# ワールドワイド携帯電話四半期動向

2008年5月1日報告

## 2008年1Q(1-3月)調査結果 目次

1	2008年1Q(2008年1-3月)結果の要約	3	6	端末需要動向推移	21
2	地域別累積加入推移(四半期別)	7	6.1.	2008年1Q(1-3月)需要動向	21
2.1.	BRICs(中国 インド ロシア ブラジル)加入推移	10	6.2.	地域別販売動向	25
3	方式別加入推移(四半期別)	12	6.3.	各社のベースバンド採用動向	26
4	2008年加入者予測	15	6.4.	2008年メーカー別需要量予測	27
4.1.	地域別	15	7	Nokiaの2008年1Q動向	29
4.2.	方式別	16	8	Motorolaの2008年1Q動向	32
5	主要オペレータ加入者数推移	17	9	Sony Ericssonの2008年1Q動向	35
5.1.	アジア	17	10	Samsungの2008年1Q動向	37
5.2.	西欧	18	11	LGの2008年1Q動向	39
5.3.	東欧	18	12	5社以外の2008年1Q動向	44
5.4.	北米	19	12.1.	欧州メーカー	44
5.5.	中南米	19	12.2.	日本メーカー	45
5.6.	中東/アフリカ	20	13	端末各社の出荷計画	46
5.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	20	14	製品在庫状況	47

## 2008年1Qの世界の携帯電話市場概況

### 加入者数推移

1-3月のワールドワイドの新規加入件数は前期4Qを下回ったものの、2007年1-3月に対しては22.6%の増加になった。

地域では欧州で大きく新規加入件数を減らしたが、アジアは微減に留まった。アジアを牽引したのは中国、インドで、1Qに関しては中国の新規加入件数がインドを上回った。春節需要期に当たるほか、固定電話、PHSからの乗り換えも加入促進要因になった。

方式別ではCDMAの新規加入が頭打ちになっている。インドが唯一安定して新規加入を獲得しているが、GSMへ移行する中南米、EVDOへの乗り換えが進む日本、北米、WCDMAへシフトする韓国、オーストラリアなどインドを除けばフェードアウトの様相を濃くしている。来期6月末には累積ベースマイナスの可能性もある。

WCDMAは西欧が一服したものの日本、韓国の伸びが大きく、特に韓国は加速度的にHSDPAが浸透しており、2008年のWCDMA年間新規加入件数は1,000万件突破が現実の状況になった。

其他方式ではPHS、iDENのセルラー隣接サービスが低調な推移を示した。PHS加入の大半を占める中国では2006年10月をピークに頭打ちになり、累積加入では2007年6月以降連続10か月前月対比マイナスを記録した。iDENは中南米で新規加入を増やしているが、主要市場の北米ではSprint Nextelの加入ベースが鈍化している。同社はCDMAとiDENの2つのサービスを提供しているが、同社の経営環境が悪化しており、iDENは存続の岐路に立っている。

前回報告では2008年は2007年を下回ると予測したが、1Qの状況を踏まえ2008年の新規加入を上方修正した。

## 端末需要

1Qの端末販売台数は前期比13.8%減、前年同期比14.4%増になった。メーカーではSamsung、LGがWon安を背景にシェアを上げた。Motorola、Sony Ericssonはいずれも4Q対比で大幅減になった。Nokiaはミッドエンドが不調であったが、ローエンドが新興国の新規需要、買い替え需要を吸収し、売上、収益とも安定した業績を達成した。ただ韓国メーカーとは対照的にユーロ高による業績悪化が今後とも懸念される。

大手の中ではLGの健闘が目立つ。1Qでは前期4Qを上回る出荷台数を達成し、収益率も2桁台に乗せてきた。Sony Ericsson、Samsung同様サブブランドによるイメージ戦略を前面に出しているが、Sony EricssonがWalkmanの後継ブランドに苦戦しているのに対して、同社はBlack labelシリーズのChocolate、Shineに続き、Secretを新たに投入、サブブランドのライフサイクルの短縮に成功している。

1Qで注目されるのは大手メーカーの生産拠点再編で、Nokia、Motorola、Samsungが大規模生産拠点の増強、新設に動いている。

Nokiaはドイツ生産拠点閉鎖に伴い、ルーマニアでの端末生産を開始した。同拠点は2009年に本格化させたい考えで、最終的には3,500名体制の拠点規模を計画している。同社はインド拠点の増強も計画、2008年末にはライン従業員13,000名を予定している。

Samsungはベトナムでの端末拠点新設が決定した。量産時期は2009年上半期を予定しており、2010年には年間1億台と韓国Gumiを上回る生産能力を実現する考えである。

Motorolaもリストラの一環として生産拠点の見直しに着手した。シンガポールの端末生産拠点の閉鎖を決定する一方、インドChennai近郊に大規模端末工場を新設する観測が出ている。

3社とも中国に主力端末生産基地を保有しているが、インドあるいはベトナムを増強することで増大するアジア市場への対応とともに、至近の元高、労働コストの上昇、優遇策の縮小懸念から一極集中の回避を狙った動きともみられる。